

日本の魅力ある博物館・美術館シリーズ
北九州市立松本清張記念館

高校生無料
会員・一般は有料



2021年春期より「日本の魅力ある博物館・美術館シリーズ」講座を実施しています。北海道から沖縄まで、日本全国の魅力ある個性豊かなミュージアムとそのコレクションについて、現地からオンラインで講座をお届けします。

今回は北九州市・小倉の松本清張記念館です。「点と線」「砂の器」など、戦後日本を代表する社会派推理小説家 松本清張の魅力をお届けします。

松本清張記念館は、社会派推理小説をはじめ、現代小説、歴史・時代小説、古代史、現代史など、様々なジャンルにわたって創作活動を続けた北九州市出身の作家・松本清張の偉大な業績を称え、後世に継承していくことを目的とし、ご遺族の全面的な協力を得て1998年に開館しました。

北九州市・小倉のシンボルである小倉城の天守閣すぐ側に立地し、全国各地・海外からもご来館いただいています。

当館は、単なる資料の展示館ではなく、唯一の松本清張研究センターとして清張の「人と作品」の研究を推進・奨励し、その魅力を広く紹介することを目指しています。2008年には「地方財政が厳しい折から各地の公立文学館などが苦戦するなか、水準の高い研究誌を刊行しつつ、多彩な企画展を催すなど、健闘しながら開館十周年を迎えた」として菊池寛賞を受賞しました。

現在、記念館に隣接した道路1.8kmが「清張通り」と命名され、市民や来訪者から親しまれています。この愛称は、清張が通った小学校区自治連合会はじめ、地元住民により要望書が提出されて実現しました。これからも、北九州市と松本清張記念館は、清張文学の原点としての使命を果たしていきたいと考えています。



「松本清張肖像と東大寺の礎石」



常設展示室1 年表



常設展示室2 再現家屋



北九州市立松本清張記念館

【住所】〒803-0813 福岡県北九州市小倉北区内2番3号

【開館時間】午前9:30～午後6:00（入館は午後5:30まで）

【休館日】毎週月曜日（休日の場合は翌日）

年末年始（12月29日～1月3日）、館内整理日

※台風などにより臨時休館する場合があります。

【入館料】一般600円、中・高生360円、小学生240円

日時	12月16日(土) 15:00~16:30	単位	1	高校生専用講座コード	2331G108
講座名	松本清張文学の 〈原点〉と〈現在〉			受講料	3,000円(1回) ※高校生無料
				定員	一般50名 高校生10名
				講座形式	オンライン専用講座

講座スケジュール ※アーカイブ配信(録画:7日間限定)も視聴できます。

●12月16日(土) 15:00~16:30

講師: 柳原 暁子 (北九州市立松本清張記念館 学芸員)

明治から平成を生きた清張は、激動の時代を生きた一市民として、憤りや疑念を抱き、作品として世に問いました。その基となる市民生活とはまさに北九州・小倉の地で経験したものです。また、清張は、北九州市を舞台にした作品を数多く書いています。これらは、清張の体験やふるさとへの思いを強く反映させたものになっています。その中から、芥川賞受賞作である「或る『小倉日記』伝」、文学青年だった頃の情景が詳細に描かれる「表象詩人」、占領下の北九州と朝鮮戦争にフォーカスした「黒地の絵」などを取り上げ、清張文学の〈原点〉である、ふるさと北九州との関わりについてお話します。

清張の七回忌にあたる1998年8月4日に開館した松本清張記念館は、今年で開館25周年を迎えます。作家の没後から31年が経ち、昭和・平成が歴史となりつつある中で、清張作品は新しい読者を獲得し、研究対象としても注目されています。これら松本清張文学の〈現在〉についてもご紹介いたします。



16歳 給仕をしていた頃の清張

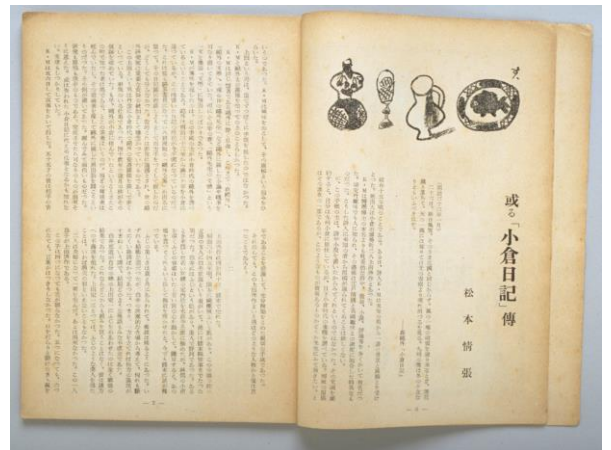
【松本清張記念館 企画展情報】

◆市政60周年・松本清張記念開館25周年記念 特別企画展「清張福岡紀行」

2023年9月30日(土) ~ 12月17日(日)

小説のリアリティを大切にした清張にとって、およそ40年の前半生を過ごし、土地勘のある福岡県は小説の舞台の宝庫でした。芥川賞を受賞した「或る『小倉日記』伝」から晩年の『両像森鷗外』まで、多くの作品で福岡県の印象的な風景を記しています。

本展では、福岡県が登場する清張作品を文章でたどり、作品の背景やそれらの舞台が現在どのような変化を遂げているかをご紹介します。



「或る『小倉日記』伝」掲載「三田文学」

講師: 柳原 暁子 (北九州市立松本清張記念館 学芸員)

お申込み方法 インターネットでお申込みください

お申込みは9月6日(水) 9:00以降

- インターネット www.ou.tmu.ac.jp/web/
- 東京都立大学オープンユニバーシティ窓口
(飯田橋キャンパス: 平日9時~17時30分)
- 電話 03-3288-1050 (飯田橋キャンパス)

- ・申込みの受付は先着順となります。予めご了承ください。
- ・申込みは受講者個人ごとに受け付けます。人数だけの複数申込みはできません。
- ・高校生は、在学高校名と学年を明記してください。



『点と線』

日本の魅力ある博物館・美術館シリーズ
国立西洋美術館



2021年春期より「日本の魅力ある博物館・美術館シリーズ」講座を実施しています。北海道から沖縄まで、日本全国の魅力ある個性的なミュージアムの学芸員や研究員が講師を担当し、コレクションや企画展について解説します。今回はル・コルビュジエ設計としても有名な国立西洋美術館です。常設展で見ることができる西洋絵画のコレクションや、その収集の歴史、さらに近年の新収蔵作品購入の様子まで、詳しくお話いただきます。

国立西洋美術館は西洋美術全般を対象とする唯一の国立美術館です。さらにはアジア最大の西洋美術コレクションを誇る美術館でもあります。

基礎にあるのは松方コレクションです。そしてそれは、ほとんど奇跡と言っているような道のりを辿り、現在に伝えられました。

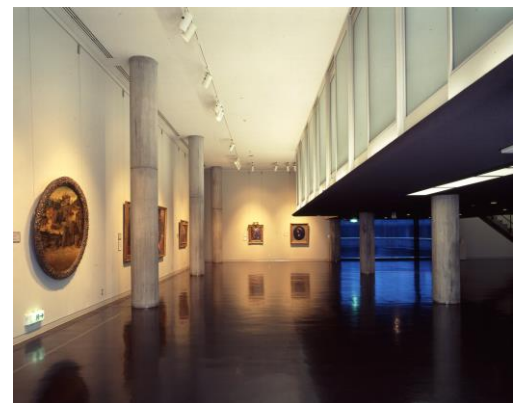
川崎造船所（現在の川崎重工業株式会社）の初代社長などを務めた松方幸次郎は、1916年以降約10年間のうちにヨーロッパで膨大な数の美術品を収集しました。その後、経済恐慌や第二次世界大戦といった苦難を経るあいだに、多くの作品は散逸し、あるいは火事で焼失してしまいます。そしてパリに残された最重要な部分（印象派の絵画およびロダンの彫刻を中心とするフランス美術コレクション）もまた、戦後フランス政府に接収される結果となりました。

日仏政府間の交渉を経て、1959年に作品群が寄贈返還されることになった折、それを展示公開する施設として設置されたのが、国立西洋美術館なのです。建物（現在の本館）を設計したのは近代建築の巨匠ル・コルビュジエでした。2016年7月に当館本館を含む世界7か国にまたがるル・コルビュジエの建築作品が世界遺産に登録されたことは、記憶に新しいことでしょう。

設立当初は370点の松方コレクションから出発した当館ですが、その後購入や寄贈によって作品を増やし、現在では主に中世から20世紀半ばまでに制作された、約6500点を収蔵しています。また、本館に加え1979年には新館が、1997年には企画館が竣工し、展示面積を大きく増やしました。企画館では年3回の特別展を開催しています。



フランク・ブラングイン 《松方幸次郎の肖像》
1916年、油彩・カンヴァス



国立西洋美術館本館2階



国立西洋美術館

【住所】〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
【公式ホームページ】<https://www.nmwa.go.jp/>
【お問合せ】050-5541-8600（ハローダイヤル）

【国立西洋美術館SNS公式アカウント】

Twitter@NMWATokyo

Facebook@NathionalMuseumofWesternArt

Instagram@NMWATokyo



日時	11月14、21日（火） 18:30～20:00	単位	1	講座コード	2331G111 高校生専用講座コード 2331G112
講座名	国立西洋美術館のコレクション： いかにして作られたか・どう作っていくのか			受講料	5,000円（2回）※高校生無料
				定員	一般32名 高校生10名
				場所	飯田橋キャンパス

講座スケジュール ※本講座は対面で実施します。

- 第1回 11月14日（火）18:30～20:00
「松方コレクションと国立西洋美術館の成り立ち」
- 第2回 11月21日（火）18:30～20:00
「コレクションをつくり、調査する」

「日本の若い画家たちに本物の絵を見せてやりたい」—明治人らしい気概を持った松方幸次郎は、パリやロンドンの画商で作品を買ひあさり、当地の話題をさらいました。印象派の大家モネからは直に購入しています。その後の恐慌による作品の散逸、戦時下の作品の疎開、戦後の政府間の返還交渉、建築家ル・コルビュジエとのやり取り…、さまざまなドラマを経て国立西洋美術館は開館します。第1回の講座では、松方コレクションの形成から国立西洋美術館の開館までを辿ります。

第2回の講座では、国立西洋美術館のコレクションが開館後いかにして増え、そして現在どのように拡大を続けているのかということを解説します。美術館が生きたものであるためには、作品の収集が欠かせません。当館もまた、開館後その収藏品数を大きく増やし、現在も作品の購入や寄贈受け入れを継続しています。作品を収蔵する際は念入りな調査を行い、それは収蔵後も続けられます。関連する文献にあたることはもちろん、科学調査も取り入れて、真贋や来歴、美術史上の価値について判断します。講座では私自身が購入を担当した作品を取り上げつつ、コレクション形成の実際についても説明したいと思います。



ベルナルド・ストロツィ
《聖家族と幼児洗礼者聖ヨハネ》
1640年代前半頃、油彩・カンヴァス



ティツィアーノ・ヴェチェッリオ
《洗礼者聖ヨハネの首を持つサロメ》
1560–70年頃、油彩・カンヴァス



講師：渡辺 晋輔 国立西洋美術館 学芸課長

講師略歴

1972年鎌倉生まれ。東京芸術大学および東京大学で学ぶ。専門は主にイタリア美術史。これまでに「ラファエロ」（2013年）、「グエルチーノ」（2015年）、「アルチンボルド展」（2017年）、「ルーベンス展」（2018年）等の展覧会を担当。著書に「ジョットとスクロヴェーニ礼拝堂」（小学館）、「国立西洋美術館 名画の見かた」（集英社）など。グエルチーノ国際美術史研究所（イタリア、チェント市）学術委員。

お申込み方法 インターネットでお申込みください

お申込みは9月6日（水）9：00以降

- インターネット www.ou.tmu.ac.jp/web/
- 東京都立大学オープンユニバーシティ窓口
（飯田橋キャンパス：平日9時～17時30分）
- 電話 03-3288-1050（飯田橋キャンパス）
- ・申込みの受付は先着順となります。予めご了承ください。
- ・申込みは受講者個人ごとに受付けます。人数だけの複数申込みはできません。
- ・高校生は、在学高校名と学年を明記してください。